

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/02/01 ～2020/06/31)

1. 勉学の状況

2月から後期が始まりました。前期以上にどの授業を取ろうか悩みました。興味のある授業に色々参加し、友達に相談にのってもらい、最終的に翻訳学部から言語学と日本語からスペイン語への翻訳の授業、そして文献学部からアジアの社会についての授業を履修することに決めました。さらに、もう一つ翻訳の授業（受講していたものより少しレベルアップしたもの）を聴講しました。後期の授業はどれも前期より難しかったように思います。

Lengua Española (言語学)

この授業は週に2回あり、火曜日は理論、木曜日は実践的な内容、そして後期の半分で先生が変わるという構成になっていました。前半の先生の内容は接続詞についてで、私もスペイン語を学ぶ際に勉強したことがあったので比較的理解しやすかったです。しかし、後半の内容は類義語の使い分けについてで、私の語彙力の無さから微妙なニュアンスの違いを理解することはかなり難しく何度もくじけそうになりました。その度に、友達がノートを授業後に見せてくれたり、休日にカフェで教えてくれたりと助けてくれました。帰国後も続けたかったのですが、グループワークの際、時差の関係で周りの人に迷惑をかけてしまうと思い断念しました。最後まで頑張れたかったのでとても残念でした。

Traducción directa japonés (翻訳)

この授業は様々なジャンルの日本語の文書をスペイン語に翻訳するという授業でした。毎回スペイン語への翻訳を予習し、授業の中で発表し、みんなで意見を出し合いました。特に日本語の言葉遊びや独特な表現法に苦勞し、直訳するのではなく意識をしたり、注釈を入れて説明したりするなどの翻訳の技法を身につけることができました。また日本の文化や言葉の説明を求められることが多く、答えられないと恥ずかしい思いをすると考え、ここは聞かれそうだなというところは事前に説明をできるように予習しました。千葉大学では翻訳についての授業がないので、この7ヶ月で翻訳の基礎について学ぶことができ翻訳の難しさや奥深さに触れる良い機会となりました。帰国後はZoomを用いて受講していました。テストは授業で取り扱ったものと類似したテキストを日本語からスペイン語に翻訳するというもので、二時間いっぱい使いなつか合格して嬉しかったです。

Sociedades de Asia Oriental (アジアの社会について)

アジアの社会についての授業は、中国、韓国、北朝鮮、日本の政治の仕組みについて学びました。日本以外でアジアをどのように見てどのような教え方をしているのかとても興味があった

ので受講していてとても楽しかったです。また、近くの国なのに知らないことが多く自分の知識の無さを恥ずかしく思うと同時に興味を持つきっかけとなりました。また、スペイン人の生徒はかなり興味を持って受けている様子でこんなにもたくさんの方がアジアについて興味を持っていることに嬉しく思いました。帰国後は先生が用意した課題を Studium という Moodle に似た場所に提出していました。最後のテストは選択式で、10問を10分で解かなければならず、スペイン語を読むのが遅い私にはとても苦労しましたが無事単位が取れてホッとしました。

途中帰国で授業自体がどうなるのか不安でしたが帰国後も継続して学ぶことができ恵まれた時代に生まれたと思いました。また、離れていてもテスト期間になるとテスト勉強に力を貸してくれた友達には本当に感謝でいっぱいです。

2. 生活の状況

後期が始まり前期より生活に慣れてきました。そのため、もっとスペインの生活に馴染みたいという思いで、2月の間は同居人と一緒にジムに通いました。また、美容室にも行ってみるなど、現地で生活してみないとできないことをたくさん経験しました。また、後期からは、前期から仲良くしてくれていた友達に加え、同じ授業で知り合った翻訳学部の友達とも仲良くなり、1週間に1度、約束をして遊びました。さらに前期は会うと話すくらいの仲だった友達も休みの日に一緒にカフェに行くようになり、距離を縮めることができました。

2月の後半には、友人とスペインのグラナダに行ってきました。この地方はイスラムの文化が濃く残っており、サラマンカとはかなり違った街並みでした。かの有名なアルハンブラ宮殿にも足を運び、そこにもイスラムの文化が色濃く残っており、とても感動したのを覚えています。また、スペイン人の友人を誘ってかねてから行きたかったカセレスにも日帰りで旅行しました。いつも私と仲良くしてくれている友人2人と一緒に旅行ができ、本当に嬉しかったです。スペインはどの地域も様々な特色があり、一つの国であるにも関わらず、いろんな国に居る気分を味わうことができました。

2月や3月の中旬はとても充実していて毎日が楽しかったのですが、2月の初めくらいにカナリア諸島にコロナ感染者が出ました。その時はまさかこんなに事態が大きくなると思っていませんでした。3月の中旬には隣国のイタリアがかなりひどい状況になっており、イタリア帰りの人がスペインに持ち帰ることで、スペイン国内でもマドリードを中心に徐々に増え、事態は日々酷くなっていました。3月の中旬にスペインでは緊急事態宣言が出され、スーパー以外、家から出られず、それ以外の外出は特別な理由がないと罰金になるという厳しい状況でした。そのため、緊急事態宣言が出される前にスペイン人の友達は帰省していき最後にお別れを言えなかったのが心残りでした。お世話になった同居人の一人も自国へと帰り、最後の挨拶できず本当に悲しかったです。また緊急事態宣言中、いつもは街にいるはずの人々が消え、とても静かな街並みでした。そして毎晩8時には医療従事者に、9時にはスーパーで働いている人に向けて住民がベランダに出て拍手をしており、私もよく参加していました。不幸中の幸いなのか、いつものスペイン

とはまた違ったレアなスペインの生活を体験できました。

3 最後に

思いがけずコロナウイルスによって現地での滞在が途中で中断ということになってしまい悔しかったですが、留学を振り返ってみるとやはりどの部分を切り取っても、楽しかったという気持ちでいっぱいです。最初の方は自分の言語能力のせいで何回も壁にぶつかったこともありましたが、その経験も踏まえて全てが自分にとって良い経験となりました。終盤は今までの自分の人生の中では経験したことのない状況で、重要な選択の連続でしたが、留学支援室の方をはじめとした様々な人のおかげで無事帰国することができ、留学を終えることが出来ました。留学を通してできたすばらしい友人との出会いにも感謝でいっぱいです。当初予定していた期間よりかなり短くなってしまいましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。多方面から支えてくださり、ありがとうございました。



(カセレス日帰り旅行)



(Plaza Mayor)



(お世話になった同居人)